キルギス共和国日本語教師会会報
第 68 号 2023 年 8 月 4 発行
Вестник Ассоциации преподавателей японского языка Кыргызской Республики
№ 68 от 04.08.2023 г.

国際交流基金（JF）助成事業

特集：第 26 回中央アジア日本語弁論大会

◆2023 年 5 月 20 日(土)、ビシケク国立大学コンサートホールを会場に本年度国際交流基金（JF)助成事業として「第 26 回中央アジア日本語弁論大会」を開催いたしました。

◆キルギス、ウズベキスタン、カザフスタン、タジキスタン、トルクメニスタンの中央アジア五カ国から合わせて１８名が出場しました。

（詳細は次ページ）

◆在キルギス共和国日本国大使館、国際協力機構（JICA）キルギス共和国事務所、キルギス・日本ビジネス協議会、キルギス共和国日本人会、株式会社ジャパンスタイル、キルギス共和国日本人材開発センター、NH Tabi Company、ビシケク国立大学のご支援ご協力に感謝申し上げます。

第 26 回中央アジア日本語弁論大会実施報告

◆「第26回中央アジア日本語弁論大会」は、キルギス共和国日本語教師会とカラサーエフ記念ビシケク国立大学の共催によるものでした。

◆回数を重ねるごとに日本語だけではなく日本や日本文化に強い関心を持つ人々が増えていることを嬉しく思います。開催担当国の教師や学習者にとっては、中央アジア５か国（カザフスタン、ウズベキスタン、タジキスタン、トルクメニスタン）からの出場者はもちろん、各国応援の方々ともお会いできるすばらしい機会になっています。

◆出場者は、キルギス 5名、カザフスタン４名、ウズベキスタン３名、トルクメニスタン-3名、タジキスタン2名で、中央アジア大会としては初めてオンラインと対面のハイブリッド方式で行われました。

◆舞台に上がって、たくさんの観客と関係者を前に直接発表できるのが一番ですが、今回は、残念ながら、国境が閉鎖されていたり、パスポートの問題があったりで、キルギスに来ることができなかった出場者には、オンラインで発表してもらいました。

◆弁論審査は、審査委員長が駐キルギス共和国日本国特命全権大使合田秀樹氏、審査員がキルギス、カザフスタン、ウズベキスタンの３か国からそれぞれ 2 名、合わせて７名の方々が担当してくださいました。

◆キルギス共和国日本語教師会は主催者として、カザフスタン日本語教師会会長カンバラエヴァ・チョルポン氏とカザフスタン日本人材開発センター日本語講師スカトフ・アリシェル氏、ウズベキスタン日本語教師会会長ナジムホジャエブ・マルフホジャ氏とサマルカンド外国語大学日本語講師ラジャボフ・ディヨル氏、そして国際協力機構（JICA）キルギス共和国事務所所長の川本寛之氏とキルギス・ロシア・スラヴ大学国際関係学部准教授ヤネズ・ミヘルチッチ氏に審査をお願いしました。

◆また、質問員として質問作成と大会当日の発表者への質問を、国際交流基金派遣の日本語専門家であるウズベキスタン日本人材開発センター青木さやか氏、カザフスタン日本人材開発センター井手剛平氏、キルギス日本人材開発センター坂下太一氏が担当してくださいました。審査員、質問員の皆様に心から感謝申し上げます。

◆スピーチには、印象的な発表も感動的な発表もありました。オンライン発表もあれば舞台に上がっての発表もあって、それぞれが提言だったり、体験談だったり、心配なこと、あるいは、将来の夢など、テーマは多岐にわたりましたが、共通する点もたくさんありました。ユーモアを交えた素晴らしい発表が多かったと思います。

◆中央アジアそれぞれの国で国内日本語弁論大会が開催されています。上位入賞者が代表として中央アジア大会に出場する仕組みです。

◆国内大会への参加は、学習者にとって自分の考えを母語ではなく学んでいる日本語で伝えるまたとない経験になるだけでなく、視野を広げる機会になります。「中央アジア大会」への参加は、出場者にとって自分の意見を伝えられるエリアがより広くなり、中央アジア諸国の日本語学習者と交流し、日本語を通じて意見交換できることは本当に素晴らしい体験だと思います。発表者、応援者、指導者、開催国で出会った人々それぞれが自国とは異なる文化、気候、風土、人々のメンタリティーなどに直に触れることができるからです。

◆中央アジア日本語弁論大会によって、これからも良い友人としての関係を続けられるよう、そして、日本語を通じて人々と文化の交流がますます促進していくことを願っています。

ヌスワリエワ・ジルディズ

ビシケク国立大学 東洋国際関係学部
日本語日本文学研究講座　講座主任

全ての方の成長に繋がって欲しい

国際交流基金　日本語専門家
キルギス共和国日本人材開発センター派遣
坂下 太一

◆今年度の中央アジア弁論大会は 4 年ぶりにキルギスでの開催となりました。参加者の皆さんが素晴らしい発表者をみせてくれただけではなく、アトラクションの演出、司会進行などどれもが素晴らしいものでした。

◆また、弁論大会翌日には「教師の成長」をテーマに、日本語教育セミナーが行われました。教師会会員の皆さんをはじめ、多くのキルギスの日本語教師の方が集まることができたのは数年ぶりのことではないでしょうか。

◆セミナーの中で、カザフスタンの井手専門家より「教師の成長」の定義についてのお話がありましたが、教師の成長とは決して、知識が増えることや教え方が上達することだけではありません。新人教師、中堅教師、ベテラン教師、それぞれの立場に応じて求められる役割は違ってきますし、必要とされる資質も変化していきます。

◆個人的には、今回の弁論大会やセミナーのために、準備を進めてくださった実行委員の先生方は、まさに教師会を支える存在として素晴らしい活躍をしてくださったと思っています。

◆他国からの学生を迎えるために 50 人分以上が滞在できるホテルを探してくださった先生、予算が少ないながらも、レセプションの準備を工夫して進めてくれた先生、賞品やエクスカーションのために後援企業と交渉してくださった先生、実行委員の先生一人一人の努力があって、今回の弁論大会は実施できたのだと思います。

◆そして先生方にとっても、今回の経験は学校内にいるだけでは得られない貴重な経験になったのではないかと思います。

◆私が基金専門家として、中央アジア日本語弁論大会に関わるのは今回が最後になりますが、今後もこの弁論大会が、学生だけでなく、「教師の成長」につながる場であってほしいと思っています。

＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊

第 26 回中央アジア日本語弁論大会審査結果

順位	氏　名	演　題	国
1	ムハメドヴァ・エゾザ	私の世界を変えた乳歯	ウズベキスタン共和国
2	ボティロフ ・サイディアフロル	充電器	ウズベキスタン共和国
3	トゥルディホジャ ・マディナ	親にたまっていた本音	カザフスタン共和国
4	ドゥワナエワ ・メーリム	人生は音楽	キルギス共和国
5	セイリベコワ ・グリチラ	郷に入っては郷に従え	ウズベキスタン共和国
6	ベリクル・マディヤール	心を繋ぐことば	カザフスタン共和国

2023年中央アジア日本語教育セミナー

アスランベック・クズ・グリザット
セミナー担当

◆キルギス共和国日本語教師会は2023年5月21日(日)、「2023年中央アジア日本語教育セミナー」を開催した。開催にあたっては、キルギス日本人材開発センターにご協力をいただいた。

◆毎年、中央アジア日本語弁論大会が開かれ、それに伴って日本語教育セミナーも行われている。本セミナーは対面式及びオンライン式で実施された。キルギスをはじめ、カザフスタン、ウズベキスタンの日本語教師30名が対面で参加し、タジキスタンの日本語教師1名もオンラインで参加した。

◆セミナーは2部に分かれ、第1部では各国（トルクメニスタはビデオメッセージを上映）の日本語教育事情報告があった、第2部では、「教師の成長」というテーマで活動紹介とディスカッションが行われた。

◆カザフスタン日本語専門家の井手剛平先生、ウズベキスタン日本語専門家の青木さやか先生に「教師の成長」の枠組みついての興味深いご発表をいただいたが、先生方のご発表を伺い、自分の日本語教師としての経験に振り返ってみた。

◆教師の仕事は本当に難しい仕事である。教師は教師になって以来、自分が持っている知識を教え子に与え続けるだけではなく、自身を教育し、成長していくものである。教師は学習目標、シラバス、カリキュラム、教案、到達目標など様々な事を計画できるようにならなければならない。

◆また、他の教師やそれぞれの学習者との関係も大事にし、毎日活動する。そうすると、キルギスの諺「Мугалим мөмөлүү дарак」（訳：教師は果樹である)のように、教師が与えた経験や知識は果物のように長年生きて、それぞれの学習者の心の一部になる。そのような教師が学習者にとって「いい先生」として思い出に残るのだと思う。

◆続いて、ディスカッションが行われたが、今回は「レベル差の激しいクラスへの対応ついて」と「忙しい中で教師として成長するためには？」という2つのテーマでディスカッションが行われた。タジキスタンのジャホンギル先生がオンラインで参加したため、2つのセミナールームで実施された。それぞれの先生方は自分たちの体験に基づいて、課題を解決するためのアドバイスをしたり、意見交換をしたりしたが、ディスカッションの内容は面白く、すばらしかったため、大盛況であった。

◆また、セミナーの最後にはキルギス共和国日本語教師会ママーシェワ・ジィデグーリ会長よりセミナー参加者全員に日本語教育セミナー受講証明書が授与された。

◆最後に、中央アジア日本語教育セミナーの準備、実施にあたりご尽力いただいた国際交流基金日本語専門家坂下先生（キルギス派遣）、ご協力くださった井手剛平先生（カザフスタン派遣）、青木さやか先生（ウズベキスタン派遣）、実行委員の皆さん、そしてご参加くださった先生方に心から感謝申し上げます。

中央アジ日本語弁論大会審査員を務めて

スカトフ・アリシェル（カザフスタン日本人材開発センター講師）

6 位のマディアールとともに

◆「第 26 回中央アジア日本語弁論大会」の審査員を務めることができ、大変光栄に思います。パンデミックの後ようやく参加者の皆さんとオンラインではなく直接お会いできたことをうれしく思います。

◆学生の皆さんは、みんな若いのにも関わらず、どのスピーチもテーマが多岐にわたり、人生全般や身近な人々との関わり方について、自分の指針を見出すために何が必要か、など考えさせてくれました。私は出場者が身近な環境だけでなく社会全体に対しても思いやりを持ち、何に対しても明るく積極的であろうとしていることにも感銘を受けました。

◆世界を変えたいのであれば、まず自分自身が変わり、ポジティブな思考を持ちつづけたら、必ず世界や周りの環境が良くなるに違いない、ということが私たち一人ひとりに対する重要なメッセージだったように思いました。

◆弁論大会の翌日に行われた日本語教育セミナーもとても勉強になりました。毎日忙しく過ごす中で、私たちが教師として成長するにはどうすればいいか、を中心テーマとして様々な話題が取り上げられ、とても有意義なワークショップでした。

◆キルギス共和国日本語教師会の皆さんの素晴らしい運営のお陰で、貴重な文化交流ができたことを心から感謝申し上げます。

♪ ♬ ♩ ♪ ♬ ♩ ♪ ♬ ♩

第 26 回中央アジア日本語弁論大会のオンライン参加を通して

ヌルゴゼリ・アマンゲルディエワ
アザディ名称世界言語大学 東洋言語・文学部日本語専攻 主任

◆今回、キルギス共和国で開催された中央アジア弁論大会では、トルクメニスタンからの二人の代表学生がオンラインで参加いたしました。わたしたちのために、オンライン参加の準備をしてくださった、キルギス教師会の皆さまに御礼申し上げます。

◆トルクメニスタンの国内大会で代表に選ばれた学生は、直接キルギスの会場で発表することをとても楽しみにしていました。残念ながら、今年もオンラインでの参加になり、わたしたちもとても残念に思っています。

◆それでも、日本語を学んでいる学生にとって、中央アジアの大会に参加できたことは、とても有意義なことです。国内のスピーチコンテストでよい評価を受けただけではなく、中央アジア大会の代表としてスピーチできたことは、二人の学生にとって、非常に貴重な経験になったと思います。

◆もちろん、できることなら、会場で多くの方々に向かって直接発表するほうが、さらに大きな経験となるでしょう。さらに、他の中央アジア各国代表のみなさんと日本語でコミュニケーションできたら、それもすばらしい経験になるに違いないと思います。

◆そういう気持ちを大切にして、来年の中央アジア大会に参加できることを楽しみにしています。

◆ありがとうございました。

タジク人にとって「幸運な」ビシュケク

ジョディエフ・ジャホンギル
タジキスタン国際外国語 大学東洋学部 日本語教師

◆まず、主催者の皆様に感謝の意を表したいと思います。いつものように、すべてが最高レベルでオーガナイズされていました。
◆私の心には、キルギスタン、特にビシュケクの温かい思い出が残っています。それはすべて親切な、思いやりのあるキルギスの皆さんのお陰ですが、特に、中央アジア日本語弁論大会がキルギスで開催されたときは、我々タジキスタンの代表者にとっていつもラッキーな大会だったからです。
◆タジキスタン代表の今までの最高位は、キルギスで受賞したものです。2008 年の大会で学生だった私は 4 位入賞、2019 年には私の学生シュクロナが同じく 4 位になりました。その時も、運良く私は引率教師としてビシュケクを訪れていました。
◆しかし今回は、色々な理由で、我々はオンラインで参加する形になり、残念ながら、タジクの学生は入賞を逃しました。でも、悔しいとは思いません。次回は全力で頑張りたいと思っております。キルギスの皆さんのお陰で我々はビシュケクからの距離を感じませんでした。

◆会場にはいくつかのカメラが設置されていたので、ホールにいる皆さんの様子も分かり、特に発表者の声はよく聞こえましたし、映像もリアルでした。スピーチをしたタジクの学生たちはとても満足し、最後までドキドキしながら結果を待っていました。
◆次の日の教師セミナーもとても勉強になりました。特にグループディスカッションができるようにセッションルームまで考えて頂いたことに心より感謝しております。
◆次回は、オンラインではなくオフライン参加ができることを願っております。

すべてに感謝！

伊達 直紀
Japan Digital University（ウズベキスタン） 事務局員

◆ウズベキスタンのJapan Digital Universityの伊達直紀です。第26回中央アジア日本語弁論大会は、私にとって、最初から最後まで忘れられない思い出となりました。
◆到着した日に温かく迎えてくださった実行委員の皆様。ホテルで食べたколобок、とても美味しかったです。何から何までありがとうございました。
◆大会当日、丁寧に案内してくれたボランティアの学生の皆さん。短い時間でも話すことができて嬉しかったです。ホテルから大学までの道中も、会場でも、気にかけてくれてありがとうございました。
◆最高のスピーチを披露してくれた皆さん。中央アジア大会までの道のりは、大変なことも多かったのではないでしょうか。心に響くスピーチをありがとうございました。
◆審査や質問に携わっていただいた先生方。翌日のセミナーも勉強、勉強の連続でした。本当にありがとうございました。
◆アトラクションを披露してくれたビシュケクの皆さん。キルギスタンの文化に触れる、貴重な機会をありがとうございました。
◆ビシュケクではたくさんの方々と知り合い、言葉を交わすことができました。ここには書ききれませんが、大会に携わったすべての方に、この場をお借りして感謝の気持ちを伝えたいです。またみなさんと、中央アジアのどこかでお会いできる日を楽しみにしています。
◆本当にありがとうございました。

♪ ♬ ♩ ♪ ♬ ♩ ♪ ♬ ♩

出場者の感想 ①

２位入賞　ボティロフ・サイディアフロル

Japan Digital University

ウズベキスタン

◆まず、大会への参加に際し尽力してくださった、キルギス共和国日本語教師会の皆様に心から感謝申し上げます。このような貴重な機会を与えていただき、光栄に思っております。
◆弁論大会参加は非常に充実した経験でした。キルギスを訪れる前は少々心配もありましたが、温かく迎えられ、参加者の皆さんが友好的であったことに感謝しています。困難な状況に直面することなく、思い出深い時間を過ごすことができました。また、大学も国も異なる学生と交流し、日本語スキルや文化交流を通じて新たなご縁をいただいたことは、大変喜ばしい経験でした。私にとって、大会での入賞よりも、さまざまな方々とコミュニケーションを交わすことができたのが何よりも心に残るものでした。
◆次の弁論大会に私は参加できませんが、来年度は後輩たちが出場してくれるでしょう、その時には経験を生かしたアドバイスやサポートをしたいと思っています。
◆提案したいことがあります。次の日本語弁論大会がさらに多くの学生たちにとって互いに経験を共有できる素晴らしい機会となることを願っています。そして、ぜひ、参加者同士の交流を促進するワークショップや交流イベントをさらに充実させていただきたいです。また、創意工夫を凝らしたプログラムによって、大会が参加者にとってより魅力的なイベントになるよう、環境を整えていただければと思います。もちろん、私も貢献できるよう頑張ります。

出場者の感想 ②

３位入賞　トゥルディホジャ・マディナ

カザフスタン国際関係外国語大学

◆ビシュケクで行われた中央アジア日本語弁論大会は、感動的なイベントでした。
弁論大会に参加するのは私にとって大きなチャレンジでしたが、参加できてうれしかったです。
◆最初から、組織のレベルの高さと主催者のプロフェッショナリズムに驚かされました。日本語と日本文化への興味を共有する他の参加者たちとの出会いは、とても刺激的でした。
◆他の参加者が選んだテーマは様々でどれも面白かったです。私は日本語を学んでいる他の人たちと知り合いになり、意見を交わし興味や趣味について語り合いました。私たちは文化も民族も国も異なる地域から集まりましたが、日本への興味と愛が私たちを結んでいます。

◆今回３位に入賞したのを光栄に思います。とても嬉しくて、この経験は、将来自分自身を成長させるためのモチベーションを与えてくれました。そして、日本語弁論大会はただ競い合うだけではなく、日本語を学び、日本の文化に興味を持つ学生たちが交流し、経験を共有するためのプラットフォームでもあることがよくわかりました。

出場者の感想 ③

特別賞　オラズバエフ・スルタン

カザフスタン日本人材開発センター

◆2023 年 5 月 20 日、第 26 回中央アジア日本語弁論大会がビシュケクを会場に開催されました。今年は私も弁論大会に参加して、「先延ばしの問題」というテーマについて発表しました。そして、キルギス日本ビジネス協議会特別賞をいただきました。

◆中央アジア日本語弁論大会は、全てがすごかったです。弁論大会の組織力は高く、おかげで不安や違和感は全くありませんでした。主催者の皆さんに感謝します！

◆会場は何とも言えない雰囲気に満ちていて、他の人たちのスピーチには感動しました。でも、心の中では「あ、私も同じように素晴らしいスピーチができるかな？」と不安な気持ちでした。

◆今年も優勝はウズベキスタンの代表でした。悔しいけど、本当に、ウズベキスタンの皆さんは強いです。尊敬しています。

◆翌日は、私たち学生はエクスカーションでした。みんなと一緒にバスに乗ってアラ・アルチャに到着したら、ゲームをやって、キルギスとウズベクの人たちと友達になりました。きれいな景色を楽しんで町に戻りました。

◆今年は私にとって最後の弁論大会でしたが、全力で発表して楽しい時間を過ごして満足です。

過程と結果

板倉 佑真（ビシケク国立大学　JICA ボランティア）

「先生、ごめんなさい」
第 26 回中央アジア日本語弁論大会が終わったあと、ある学生が私に言った。彼女はキルギス代表として出場した学生で、今回の中央アジア大会では惜しくも入賞には至らなかった。彼女はとてもひたむきで、伝えたい想いが強く、こちらのアドバイスをよく聞いて自分の弁論をよくしようと努力ができる学生だった。

彼女の口から出た「ごめんなさい」という言葉は、その真面目な性格から出たものであり、「先生にたくさん練習に付き合ってもらったのに、結果が出せなくて申し訳ない」という意味だったのだろう。

では、入賞できなかった学生は失敗なのだろうか。もちろん自分の弁論を振り返ることは大切だが、私はまずこの経験ができたことが素晴らしいことであると伝えたい。

弁論大会当日だけでなく、伝えたいことを日本語という外国語で原稿に起こしたこと、聞く人に伝わりやすいようにスピードや発音、アクセントなどを何度も練習したこと、あらゆる質問を想定して 答えられるように

ことなど、「弁論大会に向けて努力することができた」という経験と自負がこれからの日本語学習や物事に向かう姿勢をより良いものにするはずだ。

結果はどうでもいいと言いたいわけではない。もちろんモチベーションや自信に繋がるので結果も大切である。しかし一教師としては、結果だけでなくそこに至るまでの過程も大切にしたい、そして学生にも大切にしてほしいと思う。

最後に、入賞された方々はもちろん、今回の弁論大会に出場したすべての方、出られなかったけれど弁論大会に向けて努力した方、すべての人の努力と健闘に心から拍手を送りたい。

♪　♬　♩　♪　♬　♩　♪　♬　♩

キルギス共和国日本語教師会は、ビシケク国立大学との共催で「第 7 回キルギス日本学・日本語教育国際研究大会」を開催いたします

▶ 開催日時：2023 年 8 月 19 日（土）～20 日（日）
両日とも 10:00 開始（キルギス時間）・参加費：無料
後援：在キルギス共和国日本国大使館・JICA キルギス共和国事務所

▶ **ハイブリッド開催（対面・オンライン併用）**
・対面会場：ビシケク国立大学本館 2 階
・オンライン会場：Zoom リアルタイム配信
＊参加登録者には招待リンクをお送りします

▶ 参加申し込み締め切り：8 月 17 日
参加登録：KAJLT HP をご参照ください

▶ **お問い合わせ：**kyrgyzkenkyuutaikai@gmail.com

【人名・地名のカタカナ表記について】
固有名詞のカタカナ（例えば「ビシケク」と「ビシュケク」など）は寄稿いただいた記事中の表記に従いました

キルギス共和国日本語教師会会報 第 68 号（2023 年 8 月 4 日発行）
編集：キルギス共和国日本語教師会広報委員会《会報編集部》

キルギス共和国日本語教師会事務局 E-mail: kajlt.jimukyoku@gmail.com
賛助会事務局 E-mail: kyoshikai.sanjokai.jimukyoku@gmail.com
会報バックナンバー https://www.evernote.com/pub/tm0y/kyrgyz_vestnik
KAJLT HP http://jlkyoushikai-kyrgyz.jimdo.com
ウィキペディア https://ja.wikipedia.org/wiki/キルギス共和国日本語教師会
Facebook https://www.facebook.com/JLteachers.association.KR?ref=aymt_homepage_panel
http://jlkyoushikai-kyrgyz.jimdo.com/紀要-キルギス日本語教育研究/バックナンバー/

Вестник Ассоциации преподавателей японского языка Кыргызской Республики
№ 67 от 04.08.2023 г.